

県立千葉東高等学校

目 標

- ・ 生徒の留学等への興味・関心を高める
- ・ 異文化体験を身近に感じ、国際社会に積極的に貢献しようとする態度を育成する。
- ・ 国際理解教育を推進するための学校の内外の体制を構築する。

留学生等との交流会の開催

- (1) 日 時：平成30年12月18日（火）12時20分から15時20分
- (2) 会 場：本校講義室1、講義室2、講義室5及びセミナーハウス1・2階
- (3) 留学生等：千葉大学の留学生5名
- (4) 参 加 者：千葉東高校生徒122名及び職員9名、千葉北高校生徒8名、
千葉大学 ICS センターコーディネーター1名、 計 140名

(5) 内 容：

- ・ 開会式（校長挨拶、担当者紹介、留学生自己紹介、アンケート説明、会場案内）

- ・ グループ別交流会

5教室に分かれ、留学生の出身国紹介、質疑応答のあと、各教室で交流活動を行った。生徒はそれぞれ、前半・後半の2つの交流会に参加した（交流会の選択は事前の参加生徒の希望による）。

- ・ 閉会式（生徒代表謝辞、記念撮影）



(6) 事前学習：

生徒は事前に興味・関心のある事柄について質問を作成した。参加した留学生は事前にその質問を見た上でパワーポイント等の資料を用意した。質問は単発に終わらず追加質問ができるように指導した。

(7) 事後指導：アンケートを実施

(8) 参加者の感想等：

- ・ 今まであまり知ることのできなかった国のことを知る良い機会になった。インターネットや辞書などでは知ることができないものもあったので、非常にためになった。
- ・ ナチュラルスピードの英語を聞いたり、特徴的ななまりのあるような英語を聞いたりして、良いリスニングの練習になった。

海外理解促進のための講演会

- (1) 日 時：平成30年7月19日（木） 14時45分から16時
- (2) 会 場：本校体育館
- (3) 講 師：氏名 飯塚 哲男 氏
所属 ABIC 国際社会貢献センター活動会員、日独協会会員（ドイツ時事問題研究会）

(4) 参加者：第1学年生徒365名、第2学年生徒362名、教員40名、保護者5名、
計 772名

(5) 内容：演題「グローバル化の時代を生きる」

日本人が他国ではどう見られているか、また異文化を理解しコミュニケーションをはかるために日本人はどうすべきか、更にこれからのグローバル社会を生きる人材に求められる要素についてお話をいただいた。相手の意見を尊重しつつ自分の意見をしっかり言うことの大切さを学んだ。講演会后、質疑応答を行い、生徒会長謝辞で結んだ。

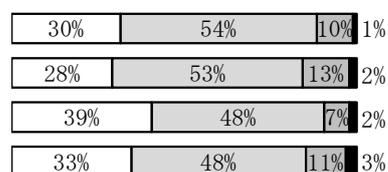


(6) 事前学習：講師紹介と講師提供の課題に取り組んだ。

(7) 事後指導：アンケートを実施

- ・「グローバル化の時代」の具体的なイメージが持てたか。
- ・「国際人」とは何か、具体的なイメージが持てたか。
- ・日本と、世界の国々との関係や異同を考えることができたか。
- ・自分の将来と現在の学習との関係を考える機会になったか。

□とても □はい □あまり ■いいえ



(8) 参加者の感想等：

- ・「自分の身は自分で守る」ことが当たり前だということが一番印象に残った。様々な人の協力があって今の安全な生活が成り立っていることがわかった。
- ・「日本人はもっと自信を持って意見を述べた方がいい」と聞き、グローバル化についていくためにも自信を持っていきたいと思った。
- ・日本人の常識的行動は国際的には普通ではないことが多く、日本を基準として考えてはいけないことを知った。

事業の成果

- ・ 講師や留学生を通じて学ぶ外国を正しく理解することができるとともに、異文化に対する興味・関心を高め、世界との関わりについて主体的に考えさせる機会を与えた。
- ・ 国際社会で働くために将来の日本や自分との関わりについて学び、国際社会に主体的に参画していく意欲と態度を促進することができた。
- ・ 国際理解推進のための連携体制を校内、近隣高校、近隣大学において構築した。

今後考えられる新たな取組

- ・ グローバル人材プロジェクト事業実施校参加生徒による意見交換会
- ・ 外部団体のプログラム等への生徒の参加
- ・ 大学主催の国際交流会への参加